

2018 年度

ボートレースチャリティ基金協力報告書



インドネシア Sumber Glagaht 村でのワークキャンプ風景

ボートレースチャリティ基金委員会

選手会口

1-1 支援概要

選手会口は選手会所属のボートレーサーの皆さまから頂いたご寄付で、ハンセン病患者・回復者及びその子供たちに対する教育支援に使用させていただいています。

2003年度より開始されましたこのご寄付により、2017年度までの15年間で、インド、ネパール、中国、フィリピン、インドネシア、ベトナム7か国において、延べ5,525人が小中学校、高校、大学、専門学校へ通う事が出来ました。

2014年～2017年の第4次支援は特に高等教育への支援に力を入れ、専門学校、大学への進学に向け将来的に就職に付けるよう支援してまいりました。実際に卒業後は、専門的な職業に付けたという報告が数多く届いております。2019年4月には、第5次教育支援の資金として15,000,000円のご寄付を賜り、当財団のハンセン病蔓延国での支援活動に伴い、現地で発掘した喫緊の教育支援に使用させていただいています。

1-2 支援学生数と支援額 (2003年から2017年まで)

	第1次 (2003- 2009)	第2次 (2009- 2013)	第3次 (2010- 2014)	第4次 (2014- 2017)	計	支援額
インド	1,078人	1,124人	376人		2,578人	¥19,413,808
ミャンマー	777人				777人	¥2,739,200
中国	489人		479人		968人	¥5,609,876
ネパール	450人			50人	500人	¥6,197,187
フィリピン		387人	76人	84人	547人	¥10,222,620
インドネシア		31人		54人	85人	¥5,580,665
ベトナム			10人	60人	70人	¥3,412,727
合計	2,794人	1,542人	941人	248人	5,525人	¥53,176,083

1-3 収入/支出状況

年度	収入	支出	事業期間
2002	¥15,310,000	¥14,952,585	2003-2009
2008	¥12,585,965	¥11,947,129	2009-2013
2010	¥11,908,005	¥10,663,364	2010-2014
2014	¥15,000,000	¥15,613,005	2014-2017
2019	¥15,000,000		2019-
総計	¥69,803,970	¥53,176,083	

チャリティオークション他口

2-1 支援概要

チャリティオークション他口は、ボートレーサーの方々のご自身のグッズをご提供くださり、オークション入札によりファンの方々花落札された収益金（下記、チャリティオークション）と各レースの優勝賞金から選手の方々のご芳志くださったものや、篤志家の方々からのご寄付（下記、選手会扱）から成り立っています。このご寄付は、各国のハンセン病回復者やその家族のために、生活環境改善や経済自立支援、そしてハンセン病対策や災害支援などの様々な支援に活用しております。

2-2 収入状況

年度	チャリティオークション他口		
	チャリティオークション	〈オークション以外〉 冠レース・選手会扱・篤志家	合計
2001	¥4,208,626		¥4,208,626
2002	¥8,515,071	¥31,000	¥8,546,071
2003	¥5,061,644	¥4,455,250	¥9,516,894
2004	¥2,610,740	¥3,084,000	¥5,694,740
2005	¥4,227,306	¥1,658,495	¥5,885,801
2006	¥3,367,947	¥3,957,578	¥7,325,525
2007	¥3,232,227	¥4,554,838	¥7,787,065
2008	¥3,208,877	¥4,254,410	¥7,463,287
2009	¥1,781,454	¥2,459,735	¥4,241,189
2010	¥3,109,270	¥2,643,816	¥5,753,086
2011	¥2,212,188	¥666,646	¥2,878,834
2012	¥2,340,193	¥21,163,956	¥23,504,149
2013	¥2,172,490	¥392,458	¥2,564,948
2014	¥2,351,211	¥177,242	¥2,528,453
2015	¥2,526,979	¥1,972,600	¥4,499,579
2016	¥2,293,860	¥1,845,763	¥4,109,623
2017	¥3,216,410	¥1,601,000	¥4,817,410
2018	¥3,741,709	¥1,522,000	¥5,263,709
2019 (4月～9月)	¥1,677,450	¥506,000	¥2,183,450
総計	¥61,855,652	¥56,946,787	¥118,772,439

2-3 予算と支出状況 (2019年9月末現在)

承認委員会 (開催年)	活動実施 年度	ご寄付額	承認額 (予算)	支出額	支出 予定 額	残額	繰り越し	繰り越し後 残高累計
第1期 (2002)	2002~2003		¥10,000,000	¥10,000,000	-	¥0	-	¥0
第2期 (2004)	2004~2010		¥16,000,000	¥14,688,352	-	¥1,311,648	-	¥1,311,648
第3期 (2006)	2006~2010		¥10,000,000	¥8,829,808	-	¥1,170,192	-	¥2,481,840
第4期 (2008)	2008~2013		¥16,000,000	¥14,288,688	-	¥1,711,312	¥2,000,000	¥2,193,152
第5期 (2010)	2010~2013		¥14,000,000	¥12,436,871	-	¥1,563,129	¥2,000,000	¥1,756,281
第6期 (2012)	2013~2015		¥30,000,000	¥27,002,616	-	¥2,997,384	¥4,500,000	¥253,665
第7期 (2014)	2015~2016		¥8,500,000	¥7,431,194	-	¥1,068,806	¥715,041	¥607,430
第8期 (2016)	2017		¥9,000,000	¥8,740,896		¥259,104	¥866,534	¥0
2017年 10月	2018		¥5,261,638	¥4,757,320	-	¥504,018	¥504,018	¥0
2019年 2月	2019		¥5,494,068					
合計		¥118,772,439	-	¥108,175,745			-	-



インド西ベンガル州チャクドラコロニーでのワークキャンプに初めて参加したインド人学生。回復者の家で生活についての聞き取り調査をする。

2-4 2018 年度活動詳細

支援総額 ¥4,757,320

2018 年度は、チャリティオークション他口から、インドとインドネシアのワークキャンプならびにガーナの家屋建築に対する支援を行いました。

2-4-1 インド

委員会	2017 年 10 月承認
支援額	¥700,000
活動内容	ワークキャンプ インド西ベンガル州の 3 つの地域で学生を中心に、ハンセン病コロニーへ泊り込み村人と一緒にインフラ整備を行い、生活環境の改善を図る。
詳細	<p>1. ビシュナプールワークキャンプ（日本人学生 9 人参加） 実施期間：2018 年 9 月 4 日～9 月 25 日 8 軒のトタン張替、壁の修繕、村人への修繕方法の伝授／8 家族 35 人の方が対象</p> <p>2. マニプールワークキャンプ（日本人学生 6 人参加） 実施期間：2019 年 2 月 27 日～3 月 12 日 オールドエイジホーム女性棟の修繕／この棟に住む女性回復者 15 名の方が対象</p> <p>3. チャクドラコロニーワークキャンプ（インド人学生 6 人、日本人学生 7 人参加） 実施期間：2019 年 3 月 5 日～3 月 17 日 家屋一軒の新築／1 家族 3 名が対象</p>
成果	<p>3 つの地域共通の成果として</p> <p>① どの季節でも安心、安全に暮らせるようになり、健康状態の改善がみられた。</p> <p>② コロニー住民が定期的に清掃を行うようになり、何かにつけ、自発的な行動が多くなった。</p> <p>③ コロニー住民にとって、修繕した家屋が無償でもらったものという感覚ではなく、「スタッフと自らが修繕したもの」という感覚に変化し、物を大切にする気持ちが生まれた。</p> <p>④ 不衛生さから生まれていた近隣住民の差別意識が減少された。</p> <p>⑤ 日本人とコロニー住民との信頼関係が構築された。</p>
写真	<p>1. ビシュナプール-8 軒のトタン張替 施工前：拾ってきたトタン屋根の切れ端やビニール、古着などで覆い、無理やり木で押さえている状態。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>施工後：トタンの張り替えを行い、隙間なく支柱と壁に打ち付けられている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>

写真

2. マニプルー女性棟の修繕

施工前：ひび割れて雨漏りのする屋上、将来倒壊の恐れがある。



施工後：屋根が綺麗に整備され、壁のひびも埋められた。



3. チャクドラコロニー家屋新築

施工前：倒壊寸前の家屋



施工風景：就労機会としてコロニーに住む大工経験のある青年が工事を請け負った。



2-4-2 インドネシア

委員会	2017年10月承認
支援額	¥214,405
活動内容	<p>ワークキャンプ、啓発</p> <p>日本人、インドネシア人のボランティアを集め、コロニーに泊り込みインフラ整備を行った。東ジャワ州 2 か所の共同墓地に続く道路の舗装と、中部ジャワ州では雨期に洪水被害が多発し衛生状態が悪化する対策として、堤防建設を行った。</p>
詳細	<p>1. 東ジャワ州 Nganget 村ワークキャンプ (日本人 10 人・インドネシア人 20 人参加)</p> <p>共同墓地への道路舗装 実施期間：2018年8月5日～8月19日 (※トレーニングは4月、調査5月・6月に実施) 対象：コロニーの住人、地域住人</p> <p>2. 中部ジャワ州 Donorojo 村ワークキャンプ (日本人 8 人・インドネシア人 10 人参加)</p> <p>堤防の設置 実施期間：2018年8月6日～8月20日 (※トレーニングは4月、調査7月に実施) 対象：コロニーの住人、地域住人</p> <p>3. 東ジャワ州 Sumber Glagaht 村ワークキャンプ (日本人・インドネシア人計 16 人参加)</p> <p>共同墓地への道路舗装 実施期間：2019年1月14日～1月28日 (※トレーニングは2019年1月、調査は2018年2月と4月に実施) 対象：コロニーの住人、地域住人</p> <p>4. 写真展</p> <p>場所：西ジャワ州、インドネシア大学 実施期間：2018年11月5日～11月6日、2018年11月26日 対象：大学生</p>
成果	<p>1. 東ジャワ州 Nganget 村ワークキャンプ (共同墓地への道路舗装)</p> <p>・道路舗装完了 (幅 1.5m長さ 100m)</p> <p>イスラム教では死後 24 時間以内に埋葬が望ましいとされ、ハンセン病に罹患したという理由から故郷では引き取ってもらえず共同墓地に埋葬される方も多。そのため共同墓地は住人にとって非常に重要な意味を持つ場所であるが、道路の状態が非常に悪く、足に疾患のある方にとっては歩行が困難であるため、修繕が急がれていた。今回の修繕で、安心して歩行できる道路が完成し住人も喜んでいる。</p> <p>2. 中部ジャワ州 Donorojo 村ワークキャンプ (堤防の設置)</p> <p>・45mの堤防完成</p> <p>15日間泊り込み、ボランティアスタッフと現地の専門業者により修繕した。結果、雨期の洪水被害対策が完了し、不安なく暮らす事が出来るようになった。</p> <p>3. 東ジャワ州 Sumber Glagaht 村ワークキャンプ (共同墓地への道路舗装)</p> <p>・道路舗装完了 (幅 3m長さ 70m)</p> <p>15日間泊り込み、ボランティアスタッフと現地の専門業者により道路の排水路修繕を行った。雨でも安全に通行ができるようになった。</p> <p>4. 写真展</p> <p>ハンセン病に関する情報や、ワークキャンプの様子の写真、参加したボランティアのコメントを展示。そのほか、来場者に事前にハンセン病に関するクイズ※を準備し、展示見学前と後でそれぞれ答えてもらうようにした。130名が来場し、ハンセン病に対する正しい知識の普及と偏見差別の軽減につながることができた。</p>

※ハンセン病クイズ結果：

①ハンセン病は感染症かそうでないか？見学前 64%正解⇒見学後 96%へ増加

②ハンセン病治療薬は無料か？見学前 39%正解⇒見学後 88%へ増加

③ハンセン病は治るか？見学前 48%正解⇒見学後 92%へ増加

④ハンセン病患者は隔離や差別されるべきかどうか？

見学前たった 51%の人々が「されるべきではない。」としていた⇒見学後 91%へ増加

写真



共同墓地へ続く道路の舗装の様子。
レンガを一つずつ丁寧に組んでいく。



完成した道路での記念撮影。
綺麗な道路が完成しました。歩行が困難な方も安心して
お墓参りが可能に。



写真展の様子。
写真と文字を使用し、来場者へ丁寧にハンセン病の状
況や回復者が抱えている問題を説明。
理解を促し、偏見・差別の解消につなげる啓発を行っ
た。

2-4-3 ガーナ

委員会	2017年10月承認
支援額	¥3,842,915
活動	ハンセン病回復者帰郷支援プロジェクト 2年計画2年目
詳細	<p>コロニーで暮らし、帰郷を希望する4人の回復者の家屋建築 故郷に住居がなく戻りたくても戻れない状況にある方への帰郷支援 実施期間：2018年4月～2019年3月 対象：セントラル州1軒、ノーザン州3軒</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Papa Quasen (男性) (Eyinda Kromハンセン病定着村で34年間生活) 2) Efua Payin (女性) (Enkankyinaハンセン病定着村で39年間生活) 3) Egya Owusu (男性) (現在 Enkankyinaハンセン病定着村で41年間生活) 4) Papa Naa (男性) (現在 Enkankyinaハンセン病定着村で37年間生活)
成果	<p>当初1年計画であったが、6か月で家屋建築が完了し、10月に家屋が4名に引き渡された。 りっぱなレンガ造りの家のため、故郷で尊敬されるようになった、ハンセン病を患ったという苦しみ が払拭された、と感謝の言葉が届いている。 2017年度は5名、今年度は4名と2年間で計9名の方が帰郷を果たすことが出来た。 ガーナではハンセン病治療が外来で可能であるため、この帰郷支援はガーナにおけるハンセン病問題 の偏見や差別といった社会的側面に働きかけるプロジェクトとなった。</p>
写真	<p>家屋建設風景</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>2018年度帰郷を果たした4名の回復者の方々へ鍵が手渡された。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div>